

森林やまがた

No. 55

2001 10月



山形県育樹祭 緑の少年団活動発表最優秀－温海町緑の少年団－



第53回全国植樹祭

感じていますか 森があるしあわせ

目次

山形県育樹祭 緑の少年団 活動発表最優秀…………… 1	現地ルポ 甦った光ヶ丘松林…………… 8
第53回全国植樹祭開催日 平成14年6月2日に正式決定… 2	クロマツと広葉樹による 海岸林の再生…………… 9
育てよう みんなの緑と ぼくらの未来…………… 4	山形県の名水・湧水……………10
最先端の高性能林業機械の実習… 5	山形県の古木・名木……………10
今後の自然体験活動の方向性… 6	「林道マラソンin県民の森」 開催のお知らせ……………11
「間伐材」・「葉付き乾燥材」の 愛称決定！…………… 7	第48回山形県林材業年次大会…11
	木材市況……………12

第53回全国植樹祭開催日

平成十四年六月二日に正式決定

本県で開催される第53回全国植樹祭の期日が、八月二十九日に行われた社国土緑化推進機構の理事会で「平成十四年六月二日（日）」とすることが決定されました。

開催日の決定とともに、式典の成功に向け、さまざまな準備が進んでいます。

記念式典

植樹祭式典では、天皇后両陛下による「お手植え・お手まき」、「苗木の贈呈」や「代表者記念植樹」、「緑化功労者等の表彰」などのほかに、「山形らしさを全国へ発信！」するプログラムを予定しています。

プロローグでは、「森羅万象」

ていきます。

くやまがた大地の鼓動く（太鼓の演奏）、里山の情景を童謡や唱歌で表現する「里山のふるさとメドレー」、記念式典では「最上川演出」、そしてエピローグでは山形のまつりをテーマに展開するなど、山形の特徴を随所に盛り込んだ内容を計画しています。

式典の演出上、重要な役割を担う音楽については、八月までに式典音楽隊の編成（十四校約五〇〇人の高校生）と演奏曲目を決定しました。

現在は、それぞれの高校で練習をしているところですが、今後は、部門別（合唱、吹奏楽及びファンファール）の合同練習や式典音楽隊の全体練習を行う

取り組みが行われています。

植樹祭式典において、登壇者の誘導や案内などを行う高校生に金山・真室川両高校の十四人が、天皇后陛下のお手植え・お手まき等の介添えを行う緑の少年団員に金山町内の小学生三十九人が、それぞれ決定されました。

九月十四日に、金山町役場で行われた式典アシスタント委嘱状交付式で、小川全国植樹祭推進事務局長より委嘱状が手渡されました。今後、来年の六月二日に向け、接遇等の研修を進めていきます。

金山町の緑の少年団では、九月上旬にビニールポットから不織布ポットへの植え替えを行いました。（不織布ポットは、とうもろこしを主原料に作られており、数年後に土に還ります。）

枯らさないようにしよう、という気持ちから、子供たちも少し緊張気味に説明を聞き、作業に入りました。

森のホームステイ

「森のホームステイ」は、県内で採取した種子から育てたブナの苗木を学校や各家庭で育て、再び森林に返す運動です。県民総参加の森づくりをめざし、最上地域の緑の少年団を中心に、

「土はこのくらいいいの?」「曲がっていても平気?」「このポットはなんで溶けるの?」「植え替え作業は大騒ぎです。樹木の苗を植えるのは初めて、という子供も多く、興味津々の様子でした。先生方も水やり、冬の間管理方法など、熱心に質問をさされていきました。

今回植え替えした苗木は全国植樹祭当日に、子供たちの手で植栽される予定です。



森のホームステイ
—金山町立明安小学校—

また秋にはブナ林を歩きながら種を採取し、それを播種・育成することを計画しています。播種した種は平成十五年のポスト植樹祭で植樹される予定です。子供たちは、ブナを元気に芽吹かせたいと今から楽しみにしています。

〔全国植樹祭推進事務局〕



全国植樹祭へあなたも参加してみませんか

県民一人ひとりが森林の持つ機能と恩恵について見つめ直す契機となるよう、第53回全国植樹祭への参加者を募集しています。

○募集人員

全県で二、〇〇〇人(市町村ごとに募集人員枠が異なります。)

○応募方法

- (1) 申込書はお住まいの市町村の第53回全国植樹祭参加者募集窓口にありますので、必要事項を記入して、申し込んでください。
- (2) 応募は一人一通に限ります。

○応募期限

平成十三年十月三十一日(水)まで(必着)

○応募資格

第53回全国植樹祭の趣旨に賛同し、森づくりや緑化運動に積極的に参加

しようとする小学生以上(ただし、小学生については保護者の同伴を必要としない方)の県内在住者です。

○参加者の決定方法

- (1) 申込者多数の場合は、抽選となります。
- (2) 参加者の可否については、平成十三年十二月末頃に招待状又ははがきでお知らせします。

○参加方法等

- (1) 参加者は、招待者本人に限りません。(代理不可)
- (2) 参加者には会場で記念植樹を行います。
- (3) 会場と、市町村ごとに指定する集合場所の間の送迎は、第53回全国植樹祭山形県実行委員会が用意するバスで行います。

○お問い合わせ先

お住まいの市町村の第53回全国植樹祭参加者募集窓口、又は、第53回全国植樹祭山形県実行委員会事務局
☎〇三三―六二九―七七三三

概ね午前五時から七時頃です。また、解散時間は概ね午後五時から七時頃になる予定です。

- (5) 会場には、指定された荷物以外は持ち込めません。
- (6) 雨天決行とします。
- (7) 参加費は無料で、昼食は実行委員会を用意します。

森があるしあわせ
感じていますか



育てよう みんなの緑と ぼくらの未来

第十三回 山形県育樹祭

去る九月七日（金）、朝日町大字大谷地内「秋葉山交遊の森」で、県民総参加の森林づくり運動をさらに進めるため、県内各地から緑の少年団をはじめ、林業関係者や一般県民など約六百名が参加して、県育樹祭が盛大に開催されました。

「角田流大谷獅子踊り」のアトラクションで幕を開けた後、式典に先立ち県内三ブロックの代表である、いいで緑の少年団（飯豊町）、温海町緑の少年団、田代小学校緑の少年団（寒河江市）がそれぞれ日常の活動を通じて得た貴重な体験談等を発表しました。

式典では、知事のあいさつ、

朝日町長の歓迎の言葉、東北森林管理局長・県議会議長・朝日町議会議長の祝辞に引き続き、林業の振興や緑化などに顕著な功績をあげられた方々へ、知事と西村山地方林業振興協議会長から感謝状が授与されました。

また、知事から県間伐コンクール表彰、朝日町長から育樹祭テーマの入賞者への表彰、山形県みどり推進機構理事長から県造林コンクールと緑の少年団活動発表大会の表彰が行われました。

最後に、地元朝日町内の各小学校に知事から「ネイチャーゲームセット」が贈られ式典を終了しました。

その後、参加者全員での記念育樹として、交遊の森造成時に殖栽されたサクラ、ブナ、ハルニレ等の施肥を行いました。

緑の少年団と朝日町内の小学校の児童約百三十名は引き続き、森林インストラクター等の指導により、「木に親しむ教室」が開かれ、会場周辺の森林散策や樹木ウォッチングなどを楽しみました。



樹木ウォッチングを楽しむ児童たち

◆ 県育樹祭表彰者

◇ 山形県森林・林業功労者

庄司 泰治（大江町）

◇ 緑化功労者

松尾 亮蔵（朝日町）

◇ 育樹祭テーマ入賞者

最優秀 堀 隼聡

朝日町立大谷小学校四年

ほか優秀五名

◇ 県民有林間伐コンクール

最優秀

（保育部門）佐藤淳司（八幡町）

（収入部門）青木勇蔵（最上町）

ほか優秀、優良、入選十一名

◇ 県民有林造林コンクール

特選 今野 光一（天童市）

特選 山根区共有地（八幡町）

入選 石塚 芳雄（朝日町）

◇ 緑の少年団活動発表大会

最優秀 温海町緑の少年団

優 秀 いいで緑の少年団

優 秀 田代小学校緑の少年団

〔県森林課〕

最先端の高性能林業機械の実習

— 高校生等が操作を体験 —

高性能林業機械の展示・実演による研修会が、八月三十日（木）と三十一日（金）の二日間

この研修会は、平成十三年度山形県森林経営インターンシップ促進事業として行われたもので、林業の専門教育を受けている高校生や林業関係者等を対象に、高性能林業機械等による新たな林業技術を普及することを目的に、山形県が山形県林業機械化協会（奥山幸作会長）に委託

託して実施したものです。

研修場所は、山辺町大字畑谷地内の県民の森県営林内にある林齢が七十〜七十一年生のスギ人工林です。

高性能林業機械は、安全で、



フェラーバンチャの体験実習

かつ効率的に作業することができ、研修会で展示・実演された機械は、フェラーバンチャ（伐採し、集積する機械）、スイングタワーヤーダ（簡単に架線集材材できる人工支柱を持つ集材機）、フォワード（グラップ

ルクレーンで材を積んで運ぶ機械）、自動枝打機（自走しながら木登りし枝打ちする機械）です。さらに、チップパー（木の幹や枝を破碎処理する機械）なども実演されました。

一日目の八月三十日（木）は、県立村山農業高等学校環境科学学科の三年生約三十人が、県の林業専門技術員や各林業機械メーカーの講師から作業工程や操作方法を学びました。普段、授業では扱うことのできない高性能林業機械に、実際に触れ、操作レバーやボタンを手にしながら、真剣に作業を体験していました。

二日目の八月三十一日（金）は、主に県、市町村、森林組合職員を対象としました。森林整備で最も重要な課題となつていきます間伐作業ですが、無線操作のフェラーバンチャによる伐採



フォワードの体験実習

作業は、掛かり木処理を簡単にでき、また、伐倒木を抱えたまま移動が可能であることから、今後かなり期待できるものです。平成十二年度末現在で、本県の高性能林業機械の導入状況は、二十三台ですが、今後、この高性能林業機械の普及が、林業労働力対策、木材供給対策の切り札として、県の新たな林業振興につながるものと期待されています。

〔県森林課〕



今後の自然体験活動の方向性

森林インストラクター

西川町 白田 孝人

自然と人との接点を大切にしたい。ライフスタイル作りを目標として、現在の自然体験活動を続けている。いろんな人達が集い触れ合うこと。地域や取り巻く自然

を知り、体験から様々なことを思い感ずること。そんな機会が

沢山あれば、自然派志向の人々

はもちろん、自然に触れるチャ

ンスの少ない人々や活動する私

達自身も、もつともつと心豊か

に生活出来る可能性が広がって

行くのではないかと思っている。

現在の自然体験活動は、行政

事業や学校、団体等が中心とな

って展開されている。個人にお

いても活動は行われているが、

規模はまだまだ小さい。近年の

環境問題や自然派志向によって、

都市部を中心に豊かな自然を所

有する地域への要求が高まって

いるが、需要が増すにつれ質が

高く継続的なプログラムが要求

されるようになってきた。

しかし現状は、イベントや交

流会、サマーキャンプ等の一過

性のものが多く、加えて人材の

不足やプログラムの頭打ちも多

く見られるようになってきた。

そこで必要になってくるのが

質の高い自然体験活動を専門に

行い、より安定した運営と活動

が出来る受け皿である。この場

合の受け皿とは、自然を舞台に

活動を展開し、通年で活動でき

ること。参加者を指導する高い



月山で開催している都市部の人達を対象にしたツアー

レベルの知識と能力を持った専

従の指導者がいること。質の高

いプログラムや教材で、自然体

験を実施出来ること。活動収入

により自立できること。と考え

ている。それには、自由な発想

と自由な活動が出来る民間レベ

ルの受け皿作りが必要と言える。

これが実現できれば、行政や地

域との相互関係がスムーズにな

り、豊かな恒常的自然環境の中

で、これまで以上に地域の特徴

を生かした自然体験活動を進め

て行くことが可能になる。

将来的には、学校週二日制など

による子供対象の需要等も加わ

り、都市部を中心に現在以上に自

然に対する関心は高まってくる

と予想される。特に、山形県の

ような豊かな自然環境を保有す

る地域は、活動する上で、十分

過ぎるほどの条件が揃う。自然を

目玉にした単なるイベント型自

然体験ではなく、その土地なら

ではの自然や風土を生かした継

続的な活動づくりやツーリズム

をすすめること。そこに住む人

々や関わる人々の自発的な参加

協力も活動の大きな要素となる。

今後、自由で柔軟な考えのも

と多くの民間主導の活動が増え

て行くこと、そして、時間をか

けながら確実に良いものを作り

あげること、地域での特色ある

自然体験活動が展開されて行く

ことを期待したい。



人工林を健全な森林に育てる過程で生産される間伐材を、有効に利用していくことは、環境保全や資源の循環利用の面からも重要です。このため、より一層の間伐の推進及び間伐材の利用促進を図るため、「間伐材」の愛称を「選りぬぎ材」とし、イメージアップを図ることとしました。

また、葉付き乾燥材は県産木材の評価を高め需要拡大を図る重要な手段で、生産拡大とブランド化により、市場での安定的な取引を推進する必要があるため、「葉付き乾燥材」の愛称を「ブレイドライウッド」とし、普及に努めることとしました。

愛称で呼ぶことが、木材の振興に繋がるよう、愛称の使用を願います。〔県森林課〕

ご利用いただいていますか？ 森林関係ホームページ

山形県では、総合行政情報提供サイト「ゆとり都」ホームページを開設し、皆様に様々な情報を提供しております。

この中の森林課のページでは、「山形の森林へようこそ！」と題しまして、森林・林業・木材産業のイベント情報や県民の森のご案内など、身近な森林関連情報を発信しております。

また、平成14年6月に開催されます第53回全国植樹祭につきましては、独自のオフィシャルホームページが開設されており、ご覧いただいた方の参加・交流型のコーナーも充実しております。

皆様のご利用をお待ちしております。

アドレスは次のとおりです。

「ゆとり都」ホームページ内森林課のページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>

第53回全国植樹祭オフィシャルホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>

「ゆとり都」ホームページ内森林課のページ



第53回全国植樹祭オフィシャルホームページ



現地ルポ

甦った光ヶ丘松林
砂防林整備ボランティアのうねり

酒田市の光ヶ丘地区は、陸上競技場、野球場や武道館など、各種スポーツ施設が集中し、それらを取り囲む松林は「光ヶ丘松林」として市民に親しまれています。

この松林は、かつて本間光丘が、市街地を飛砂から守るために植林した区域であり、代々本間家によって管理経営されてきました。そして、現存する庄内砂丘の砂防林の中では、最も古く、美しい松林であり、歴史的遺産、酒田市のシンボルとして市民の誇りとなつていきます。

スポーツ施設周囲の土地は酒田市が本間家から買い上げ、都市公園として管理していますが、私有地以外の松林については、本間家をめぐる諸般の事情から、



残材の運搬は重要な仕事

由緒ある松林が手入れ不足の状態となり、これを憂える声があつていました。

くしくも二十一世紀始まりの今年、光丘没後二百年でもあり、また、東北公益文化大学が開学し、公益学発祥の年となつた節目の年でもあります。

これを契機に、かつて酒田が本間家から受けた恩恵に対し、今度は市民の手によって、歴史ある砂防林を守り育てようとい

う運動が立ち上がりました。

昨年十一月三日には、初めての試みとして、市長を先頭とした酒田市職員による森林整備活動が行われました。そして、同十一月二十五日には、庄内地方林業振興協議会の緑の募金事業と市との共催で、一般市民も含め一八〇名の規模で、除伐、下刈、枝打ち、つる切りなど松林の手入れが行われました。

今年度からは「光ヶ丘地区環境美化活動」として春、秋の二回行うこととなり、総合支庁をあげて作業に協力すると共に、東北公益文化大学も共催として参加し、まさに公益学の実践的活動として、広く市民に定着しつつあります。

今年六月二十三日の活動には、二五〇名が参加し、整備で発生する残材の運搬集積など、特に人手のかかる作業において、ボランティアならではの人界戦術

が効果を上げています。そしてこの秋で残りの区域を整備し、今年中に、おおむね整備が完了する見通しとなりました。

長い間、人の入り込めないやぶと化していた松林は、市民の力によって、再び美しい松林に甦つたのです。今後は、予想されるニセアカシアの萌芽などの刈払いやつる切りなどの作業を続けるとともに、同様の砂防林整備ボランティアを行う区域を近隣に拡大し、暮らしを守る砂防林を、市民自らの手で守り育てようという運動を、いっそう進めてまいります。「庄内総合支庁森林整備課」



ボランティアに集まった大勢の人々

県森林研究研修センターからのお知らせ

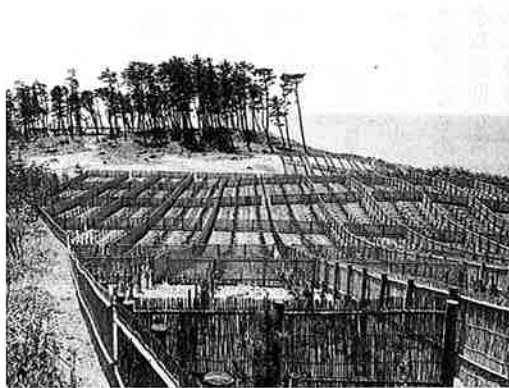
クロマツと広葉樹による海岸林の再生

◇はじめに

海岸のクロマツ林は、強い季節風による飛砂の害や塩風害を防ぎ、地域住民にとって必要不可欠な存在となっています。しかし、松くい虫による枯損被害は予想以上に大きく、森林の復元が難しい被害地も多く見られます。被害地の復元にあたっては、松くい虫被害に強い抵抗性クロマツや広葉樹の植栽が考えられますが、庄内地方に適した抵抗性クロマツや、クロマツと同程度の防災機能を持つ広葉樹は現在のところ見つかっていません。そこで、再被害の危険性はあるものの、クロマツの植栽による海岸林の復元が行われているのが現状です。

◇広葉樹の必要性

砂丘地の内陸側や、吹浦以北及び湯野浜以南の丘陵地帯では、必ずしも砂丘地の最前線と同程度の防災機能が必要としないため、全てがクロマツ林である必要はありません。庄内海岸は、以前は鬱蒼とした広葉樹林であったと伝えられています。その



クロマツによる海岸林の復元状況

ため、むしろクロマツと広葉樹の混交林化や、広葉樹林への転換等広葉樹を利用した多様な海岸林を復元することが、将来的に安定した海岸林の復元につながります。そこで、海岸丘陵地帯の天然の広葉樹林を調査し、復元目標とするべき広葉樹林について検討しました。

◇目標とする広葉樹林の探索

庄内地方の海岸丘陵地帯で、八十九箇所天然の広葉樹林を調査し、主な広葉樹の種類とその量から広葉樹林を分類しました。その結果、海岸の広葉樹林は、カシワ林、シナノキ林、ケヤキ林、エゾイタヤ林、タブノキ林の五タイプに分類できました。海岸丘陵地帯の立地環境は非常に多様であり、立地環境に適したタイプの森林を復元することが必要となります。そこで、各立地環境に適した広葉樹林タイプ



天然のカシワ林

について検討しましたが、立地環境に対応できる最適なタイプの判別までには至りませんでした。

◇今後の展望

海岸における防災機能を考えた場合、クロマツに匹敵する樹種はありません。しかし、松くい虫による再被害の心配もあることから、これら五樹種の植栽・保育方法について検討し、松くい虫に強い多様な海岸林の復元方法について考えていきたいと思えます。

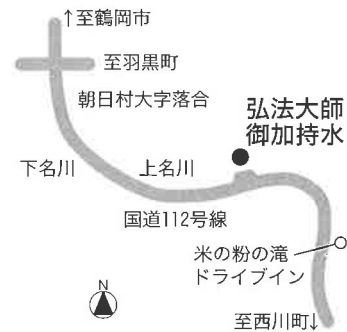


この地蔵様は昔弘法大師が一夜で刻んだものという言い伝えがあり、子授け、安産などの子安や、様々な信仰が寄せられています。また、子供が寝冷え腹痛の時、この腹巻きを借りると不思議に治ると言われています。

なお、この清水は弘法大師御加持水と言われ、冷たく美味しい名水で、飲む人の喉の渴きをいやしてくれます。(山形県森林協会)



案内図



熊野神社の境内にある「山五十川の玉スギ」は、樹勢が球状などからこの名がある。

幹の西側は神社に面しておよそ三・五段の崖があり、太い根部が地上に露出して縦横に走り、拝殿の下を通るなど奇観を呈している。

樹高は三十六段、枝張が東西に四十四段、南北に三十段あって、根元周囲二十二、二段、目通幹周四十一、四段に達し、全体が半球状を呈しており、樹齢千五百年位と言われている。昭和二十六年六月九日国指定天然記念物に指定されている。(山形県森林協会)



案内図



「林道マラソン」県民の森 開催のお知らせ

来年度本県で開催される全国植樹祭を記念して、今年も林道マラソンが県民の森で開催されます。

今回は親子からセミプロまで楽しめる10km・5km・2kmの3コースを設定し、またゲストラナーとして、世界選手権銀メダリストの市橋有里選手を招待しています。走りに自信のある方、そうでない方も一流選手と一緒に走れる絶好の機会です。是非ご参加下さい。

当日は楽しいゲームやクラフトワークなどのイベント、秋の味覚販売市・大鍋による具だくさんのキノコ汁（先着順）も用意しています。食欲の秋、スポーツの秋さまざまな秋を県民の森で満喫してはいかがですか。

○期日 10月21日（日）
受付 8:45～ 開会 9:30～
スタート 10:00～

○会場 県民の森はんのき広場
○コース及び区分
10km／高校生以上

5km／中学生以上
2km／小学生以上

○特典 大根・キノコ等の参加賞のほか、とび賞など多数の賞品を準備しています。

○参加費

一般 一、五〇〇円
中学生 一、〇〇〇円
小学生以下 五〇〇円

○申込方法

県・市町村等に置いてある申込用紙（郵便振込用紙）で申込み下さい。

○申込期限 10月10日（水）

○問合せ先 県庁森林課内

「林道マラソン事務局」

☎〇二三一六三〇―二六九三

第四十八回山形県林業年次大会

○日時 平成13年10月13日（土）
10時30分～12時

○場所 山形市国際交流プラザ
4F中会議室

○主催 山形県森林協会

○後援 山形県・東北森林管理局・山形市ほか

環境を守ろう

災害に強い県土を
良質な水の安定供給を
緑豊かな環境づくりを

森林を育てよう

山村の生活環境の整備を
森林の恵みの循環利用を

山形県森林土木建設業協会

山形市桜町2-35(林業会館内)
電話(023)632-3893 FAX(023)632-5454

もり 森林の鼓動が聞こえますか…

森林を守り育てる「林業従事者」の育成と確保を目指して

うるおいあるふるさとづくり



財団法人山形県林業従事者育成基金

(山形県林業労働力確保支援センター)

☎990-2334 山形市蔵王成沢字町浦535番地
山形県森林組合連合会内
電話(023)688-8220 FAX(023)688-8103



国民の森林・国有林

慈しみ育んだ
信頼の年輪 国有林材

東北森林管理局

〒010-8550 秋田市中通五丁目9-16



秋の味覚は、やっぱり「きのこ」!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

きのこパワーで健康生活! “毎日食べよう山形きのこ”

山形県きのこ振興会

〒990-8570 山形市松波2-8-1 ☎023-630-2542



素材	樹材種	材長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較		
	スギ小丸太	3.65~4.00m	込	12,400円	-100		
スギ中丸太	//	//	15,900円	± 0			
スギ大丸太	//	//	18,800円	-100			
材	米マツ中丸太	6.0m~	普通材	19,400円	100		
	米マツ大丸太	//	//	23,200円	200		
	北洋アカマツ中丸太	3.8~	//	16,600円	-400		
製品	樹材種	厚	幅	長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較
	スギ柱	10.5cm	10.5cm	3.00m	特等	60,500円	-100
	米マツ柱	10.5cm	10.5cm	4.00m	//	57,500円	-100

木材市況

(九月一日現在)

印刷所

渡辺活版所

定価

一部二〇円

森林やまがた10月号 平成13年10月1日発行 通巻第55号

編集 山形県森林協会 山形県

発行 山形県森林協会

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内

TEL 023-631-6566 023-622-8823

FAX 023-631-6573